

第34週(8月18日～8月24日)トピックス:<新型コロナウイルス感染症>

第34週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、本市7.14(前週4.54)、全国8.73(前週6.30)と、ともに増加しました。

新型コロナウイルス感染症は、2020年の流行開始以降、概ね夏と冬に患者報告数の増加があり、2023年(令和5年)5月8日に感染症の感染法上の位置づけが、全数把握から5類定点把握に変更された後も同様の状況が見られます。2025年も本市では1月の第2週にピークを迎えた後、徐々に報告数は減少していましたが、6月頃から再び報告数が増加に転じ、現在、年間で最も高い値となっています(図1)。

直近3週の都道府県別定点当たり報告数の推移をみると、例年は、お盆の時期にあたる、前週(33週)は医療機関の休診があるため、報告数が減少しますが、本年は前々週(32週)から29道府県が増加しました。さらに今週(34週)は、前週(33週)から44都道府県が増加していることから、全国的な流行となっています(図2)。

新型コロナウイルス感染症の原因ウイルスであるSARS-CoV2は、感染力の高い変異株が出現すると、流行が急拡大し、その後しばらくして患者数は減少しますが、また新たな変異株が出現すると患者数が増加する、という状況が繰り返されています。

全国のゲノムサーベイランスによる系統別検出状況(国立感染症研究所：7月16日現在：下記URL)によると、6月分系統別検出状況はNB.1.8.1(通称Nimbus、ニンバス)が全体の40.52%を占め、現在の主流となっています。このニンバスは、オミクロン株BA.2の亜型で、感染力が他の株に比べやや強いと評価されており、今後の感染動向には注意が必要です。

夏休みが終わり、学校等での子供同士の接触機会が増え、今後も感染の拡大が懸念されます。感染を予防するために、手洗いの徹底、必要に応じたマスクの着用など基本的な感染対策に努めましょう。また、外出時は人ごみを避け、室内においてはこまめに換気し、免疫力向上のためにバランスの取れた食事や十分な睡眠などを心掛けましょう。

○京都市情報館「新型コロナウイルス感染症発生動向について」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000312164.html>

○全国のゲノムサーベイランスによる系統別検出状況(国立感染症研究所)

https://id-info.jihs.go.jp/diseases/sa/covid-19/180/20250716_Jun_zenkoku_lineage.pdf

図1.新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数の推移(令和5年第19週～令和7年第34週)

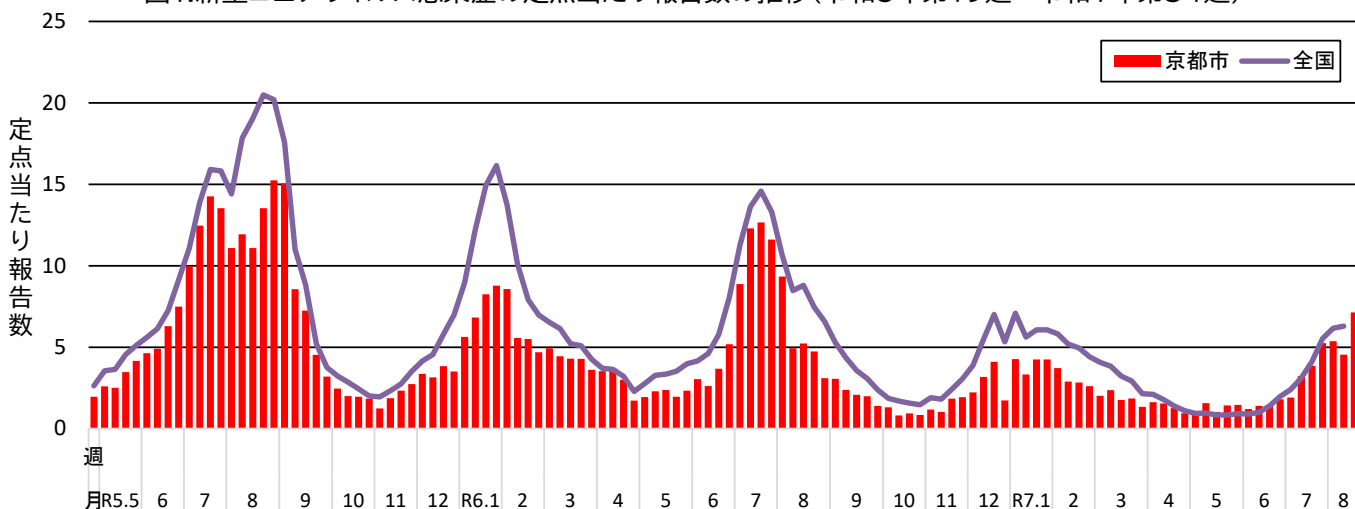


図2.都道府県別定点当たり報告数の推移(令和7年第32週～第34週)

